

現代日本論概論「現代日本における職業」東北大学 文学部 (2012年度 第4セメスタ)

第9講 ジェンダーと労働

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 性別による働きかたのちがい

1 課題

別紙のグラフ (総務省統計局「労働力調査」2010年による) をみて、次のことについてまとめよ

- 男女間のちがい
- そのようなちがいが生まれる原因

2 復習

- 従業上の地位の分類
- 性別役割分業とは?
- キャリア間の葛藤とは?
- なぜ非正規雇用が選択されるのか?

3 M字型曲線

現在の日本社会では、女性の労働力率を年齢階級別に描くと、30代後半を底とする曲線となる。このグラフの形がアルファベットのMに似ているので、「M字型」曲線と呼ばれる。

一方、男性の労働力率は、20代後半～50代まで90%を超えており、また、中年期の落ち込みがない(高原型)。

4 次回 (1/11) までの宿題

「労働力調査」「賃金構造基本統計調査」について、つぎの項目を図書館で調べ、A4用紙にまとめて次回授業時に提出

- (1) 2008年(年平均)の15歳以上人口、労働力人口、労働力率、完全失業者数、完全失業率を調べる。
- (2) 2008年の「所定内給与」平均、「所定労働時間」平均を調べ、それらをもとに、所定内労働1時間あたりの平均賃金をもとめる。
- (3) これらの報告書の解説を読み、それぞれの調査方法のポイントをまとめる。
- (4) これらの項目をどのような手順で調べたか。また調べる上で苦労した点。